

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	平成29年度 第3回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会
開催日時	平成30年1月12日(金) 午後3時30分から午後5時00分
開催場所	加東市役所 3階 302会議室
議長の氏名 (会長 梅野巨利)	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員>	
・梅野 巨利 ・小倉 康 ・吉田 伊佐見 ・井上 益子 ・西山 哲翁	
・石井 保 ・川越 美紀 ・豊福 乃子 ・堀内 千稔	
<欠席委員>	
・神田 耕司	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
・技監 田中 修平	
・上下水道部長 利山 尚由	
・上下水道部管理課長 服部 紹吾	
・上下水道部管理課副課長 阿江 英俊	
・上下水道部管理課主事 岩佐 淳平	
・上下水道部参事 大畑 敏之	
・上下水道部工務課長 安則 宏幸	
・上下水道部工務課副課長 神戸 剛	
・上下水道部管理課主事 小谷 拓海	
傍聴者 なし	
1 協議事項	
(1) 上下水道ビジョンの骨子(案)について	
(2) 水道事業経緯戦略(素案)について	
2 会議資料	
【資料No.1】 水道ビジョンの骨子(案)	
【資料No.2】 下水道ビジョンの骨子(案)	
【資料No.3】 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会に係る意見等に対する考え方等について【上下水道ビジョン】	
【資料No.4】 水道事業経営戦略(素案)	
【資料No.5】 第2回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会に係る意見等に対する考え方等について【水道事業経営戦略】	
【別紙】 意見書	
3 会議の経過	
⇒別紙「平成29年度第3回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過」のとおり	
平成30年2月6日	
会長	梅野 巨利
委員	小倉 康

(別紙) 平成29年度第3回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会 事務局より定足数の確認を行い、本運営審議会が成立することを報告</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 協議事項 協議事項の(1)、(2)について、事務局から説明</p>
	<p>【質疑応答等】 協議事項</p>
委員	<p>(1)上下水道ビジョンの骨子(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策目標「強靱」における実現方策「耐震化の推進」と施策目標「持続」における実現方策「老朽施設・管路への対応」の両方の施策(具体例)をみると、同じ表現となっているが、耐震化と更新は別の話ではないのか。また、水道事業経営戦略(素案)では、配水池やポンプ所の耐震化が掲載されているが、資料1の耐震化施策には記載がない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 施設や管路を「持続」的に利用できるように更新することで、「耐震」性能も高めたいと考えており、「耐震」と「持続」の両方に同じ施策を記載している。また、配水池などの耐震化については、「持続」の施策に記載している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントとは、資産の状態を点検して更新すべきかどうか管理していく手法なので、耐震化は関係しないのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 更新と併せて耐震化を図りたいというのが現時点での方針である。ただし、今回の配布資料はビジョンの骨子(案)であり、最終的には水道事業経営戦略のような冊子にとりまとめる予定である。とりまとめ段階で方針の具体的内容について再度ご議論をお願いすることとさせていただきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> 確かに耐震化対策と老朽化対策は分けて考えるべきと思う。その点は次回以降の審議会で議論したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2では、施策目標「人・モノ・カネの持続可能な一体管理(アセット)の確立」における実現方策「污水管渠の長寿命化」及び「マンホールポンプの長寿命化」などで、施策(具体例)にある「ストックマネジメント手法を用いた検討」が方向性に関する話であり、逆に方向性を書いてある「事業量の把握や点検調査」などが施策(具体例)にあたるのではないかと。また、方向性を書いてある「事業費を示してから事業量を把握する」という説明は、カネの範囲内で事業をするという意味にとられかねない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> すべてを短期間で更新することは現実的に難しいため、布設した時期などによる経年劣化度と事業量を勘案し、費用の平準化を図りたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> たとえ問題があったとしても、予算の枠内でしか事業をしないということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 単年度予算はもちろん枠内に収める話が出てくるが、ビジョンでは中長期的な予算について、使用料への影響も考えながらやるべき事業を考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の文章を読むと、予算があるから予算分の事業をすると読み取れる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の点を踏まえ、文章表現を見直したい。
委員	<p>(2)水道事業経営戦略(素案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 10ページの「加東市の地域特性」とは何か教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 本市では表流水、ダム水及び県営水道からの受水があり、水源毎の原水水質などに違いがあることなどを地域特性として表現している。また、合併した旧3町がそれぞれの地域毎で水源を保有していたという特性も指している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自己水源の取水割合を50%前後とする根拠はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 10ページの図2-4に示すとおり、現在は自己水源の割合が42%となっている。

<p>委員 事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>会長</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>会長</p>	<p>自己水源と県営水道受水の原価を比較すると、自己水源の方が安価である。なるべく自己水源を活用したいという考えである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 50%がよいと判断する理由があるのか。 • 浄水場の事故など断水リスクを回避することを想定して、リスク分散等の観点から自己水源と県営水道受水の割合を概ね 50%ずつと考えている。 • 県営水道も以前漏水があった。リスク分散の考え方ということで概ね 50%ずつにするという考えは賛同できる。 • コスト面では 100%自己水源とすべきということであろうが、リスク分散等ということで概ね 50%ずつというのは、妥当な考え方だろう。 • リスク分散等を考えてということであれば、概ね 50%ずつにすることの良さをもっと書いた方がよい。 • 旧 3 町の水源を引き継いだという特性、自己水源と県営水道受水を概ね 50%ずつとしたいとする理由などを課題に書くのではなく、現状で説明してはどうか。 • 20 ページで企業債に関し、「利用者の世代間の公平性を考慮」という表現があるが、この意味を教えてください。 • 企業債は、一時的に必要な金額を借り入れた後、一定の期間で返済するものである。企業債を借りないと現在の利用者がすべて負担することになるが、整備した施設は次世代にわたり使い続けるので、このような表現を用いている。 • 内容は理解できたが、それでも将来に負担を負わせると捉えられ兼ねない表現は好ましくないと考える。 • 今より将来に負担を負わせるという考えではない。企業債の借入れによる資金調達で事業を行う必要があるため、その後の文章表現にもあるように「効果的な企業債の活用を検討」していくという考えでこのように記載している。 • 意味は理解したので、表現についてはもう少し配慮してほしい。 • 文章表現についても一度考えてみたい。各委員からの意見については、パブリックコメントの後に反映させたいと考えているので、ご了承いただきたい。 • 新たな意見があれば、意見書に書いて事務局に提出をお願いしたい。 <p>4 その他</p> <p>(1) 今後の審議会について 次回の審議会等日程について、事務局から説明</p> <p>(2) その他</p> <p>①パブリックコメント 実施期間等について、事務局から説明</p> <p>②意見書の提出期限 提出期限等について、事務局から説明</p> <p>5 閉会</p>
---	--